

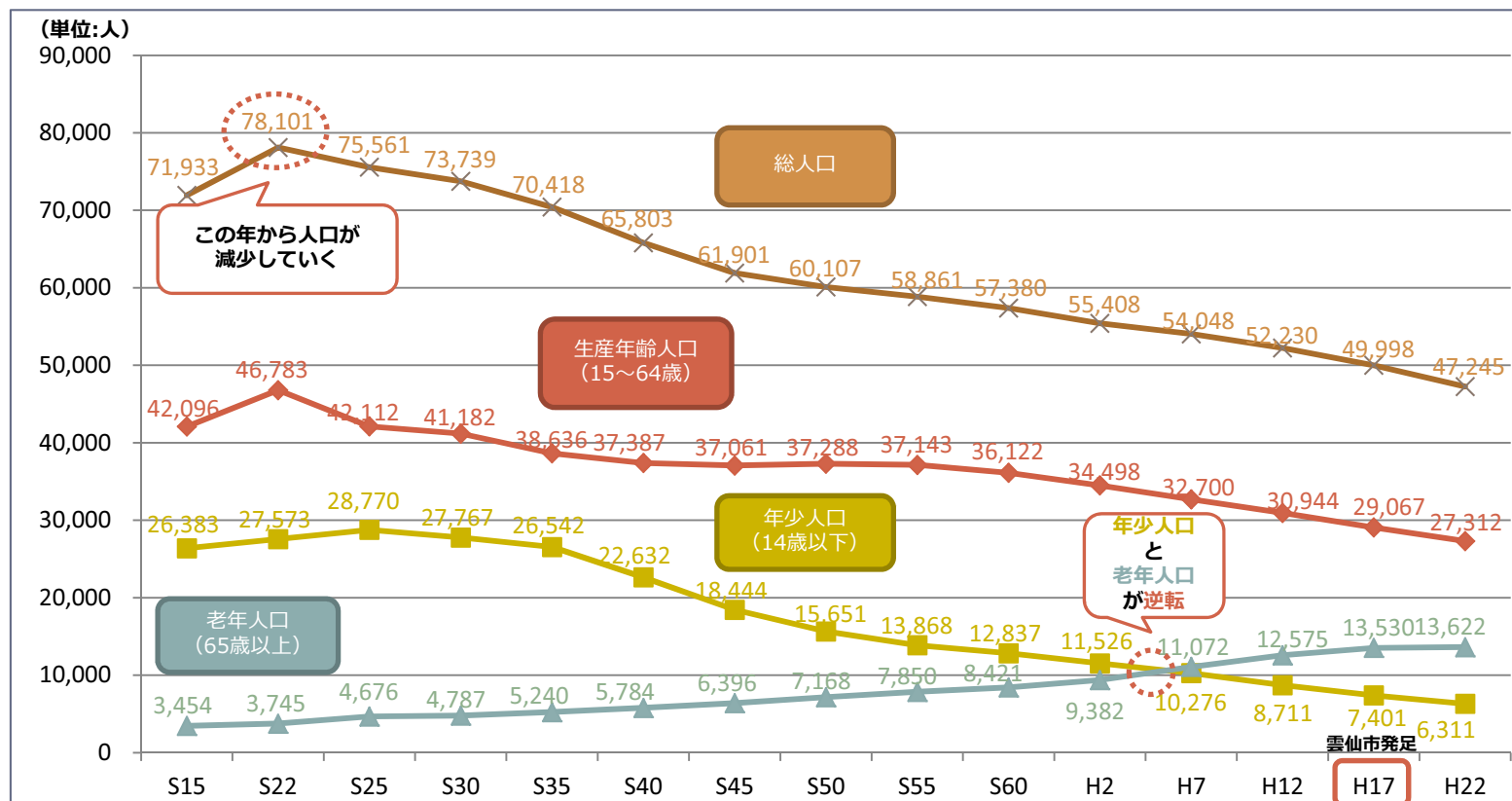
# 雲仙市における人口動向（～現在）

## 昭和22年から人口は減り続けている

雲仙市の人口は、昭和22年から減り続け、雲仙市発足時の平成17年国勢調査時では49,998人でしたが、5年後の平成22年には47,245人と2,753人の人口が減少しました。

年少人口（14歳以下）、生産年齢人口（15～64歳）、老年人口（65歳以上）の3年齢区分で見ると、年少人口、生産年齢人口は昭和25年、昭和22年をそれぞれピークとして人口が減少していくのに対し、老年人口は右肩上がりとなっており、少子高齢化が進行していることがわかります。

《図1》雲仙市の人口推移（昭和15年～平成22年）



# 雲仙市における人口動向（現在～未来）

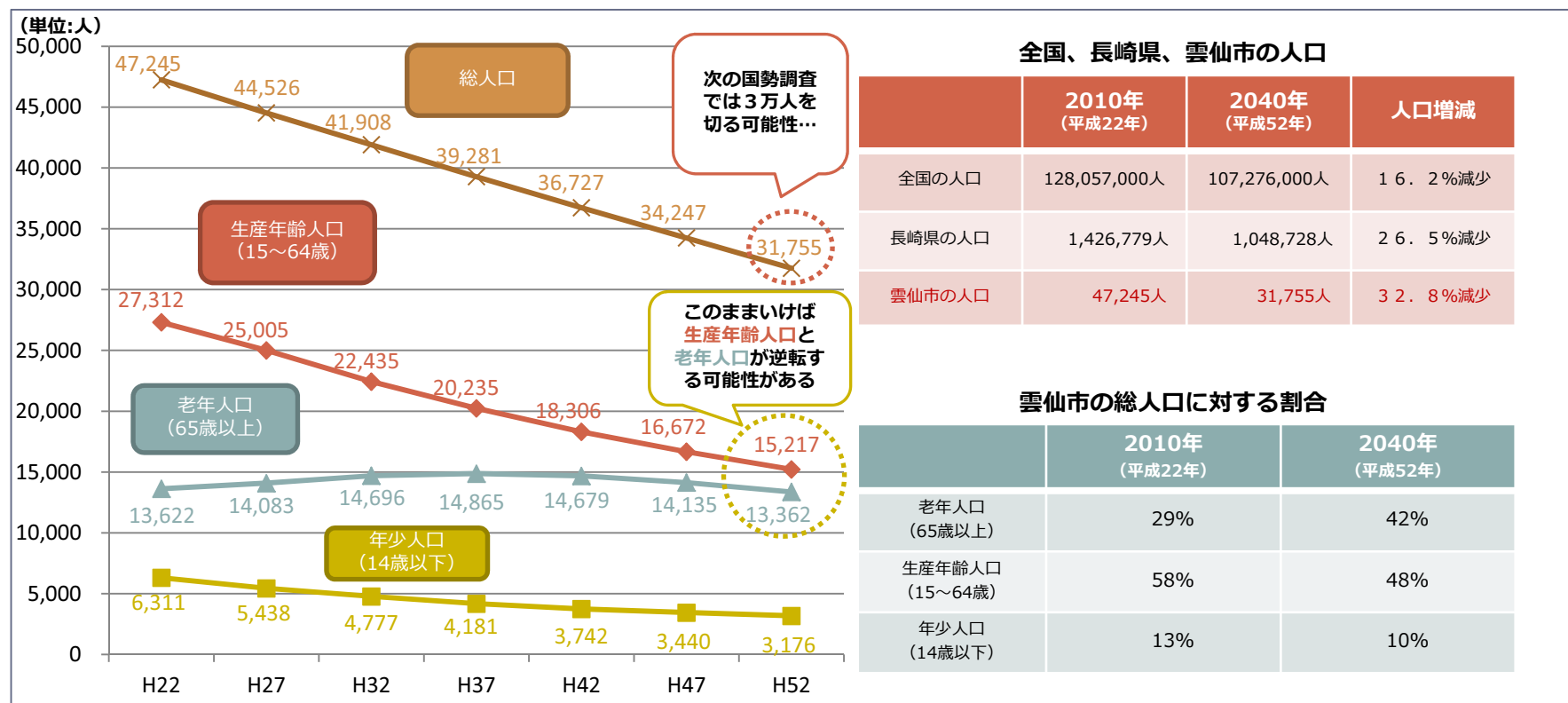
## 人口が約1/3減少、ますます少子高齢化へ

国立社会保障・人口問題研究所の推計結果によると、平成52年の雲仙市の人口は、31,755人にまで減少すると予測されており、平成22年と比較すると約1/3（32.8%）減少するとされています。

年少人口（14歳以下）、生産年齢人口（15～64歳）、老年人口（65歳以上）の3年齢区分別の割合は、年少人口は10%、生産年齢人口は48%、老年人口は42%となっており、現在よりも少子高齢化が進行することが予測されています。

このままのペースで人口が減少し続ければ、総人口に占める老年人口の割合は高まり、将来は働き手1.14人（ほぼ1人）で1人の高齢者を支えることとなります。

《図2》雲仙市の人口推移（平成22年～平成52年）



資料：国立社会保障・人口問題研究所「日本の地域別将来推計人口」（平成25年3月推計）

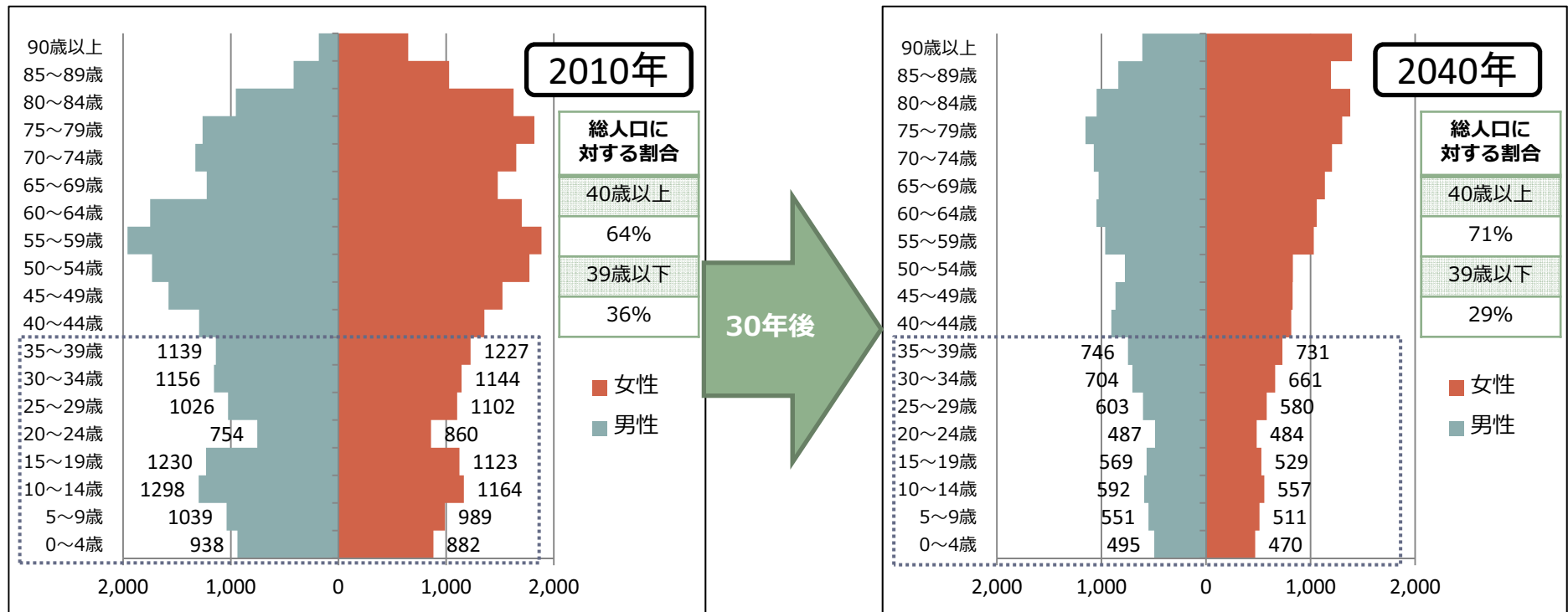
# 雲仙市における人口動向（現在～未来）

## 3 9歳以下の年齢層が減少

各年齢層（5歳階級）の人口について2010年と2040年を比較すると、40歳以上の割合は増加しているのに対し、39歳以下の割合は減少しており、なかには約半数まで人口が減少する年齢層もあります。この年齢層は、現在または将来の働き手であり、雲仙市を支える重要な存在でもあります。

また、将来結婚し、子どもを持つ可能性がある若年層の減少は、将来の総人口の減少という影響をもたらします。そのため、雲仙市においては、この年齢層の減少に歯止めをかけるため、「若者世代をターゲットにした人口減少対策」を課題として取り組む必要があると考えています。

《図3》雲仙市の人口ピラミッドの変化（5歳階級別）2010年、2040年



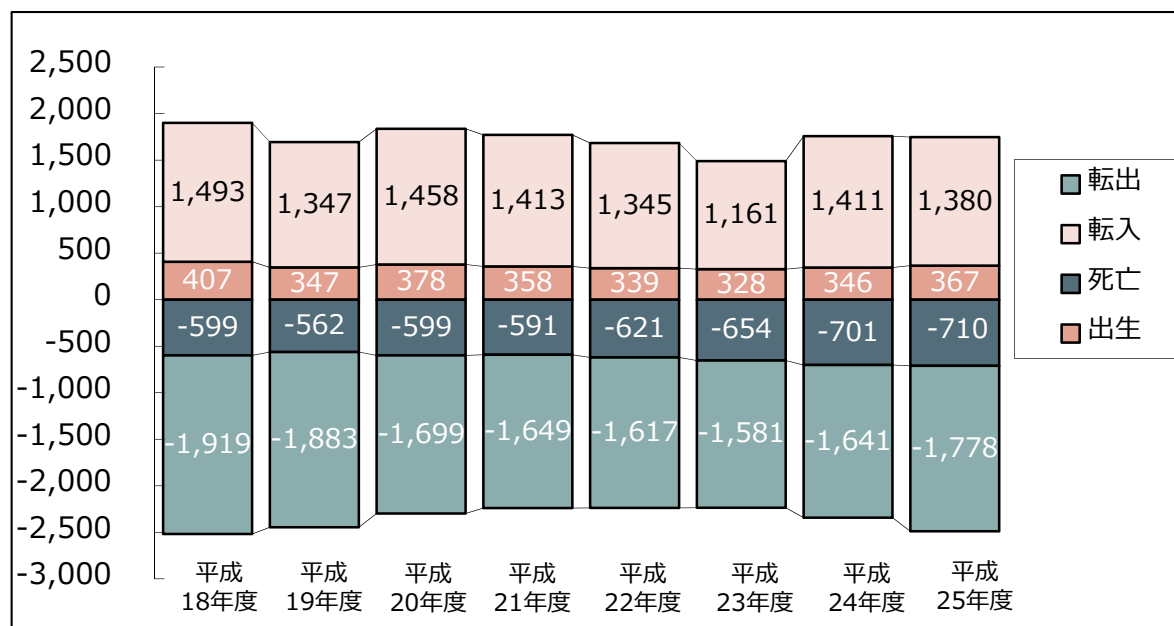
資料：国立社会保障・人口問題研究所「日本の地域別将来推計人口」（平成25年3月推計）

# 雲仙市の人口動態の推移

## 自然動態、社会動態の減少

雲仙市発足後の平成18年度～平成25年度の人口動態の推移をみていくと、出生・死亡による『自然動態』、転入・転出による『社会動態』が増加した年度はなく、ともに減少しており、総人口の減少を招いています。このことから、雇用の場の確保や、子育てをしやすい環境の整備、住環境の整備など、人口の減少に歯止めをかけるための対策が求められています。

《図4》雲仙市の人口動態の推移（件、人）



《表1》雲仙市の人口動態の推移（件、人）

	平成18年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度
自然動態	-192	-215	-221	-233	-282	-326	-355	-343
社会動態	-426	-536	-241	-236	-272	-420	-230	-398
合計	-618	-751	-462	-469	-554	-746	-585	-741